

東海生研 ～ メールマガジン 第150号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
  - ☆NP0法人東海地域生物系先端技術研究会総会及び第1回セミナー（6月22日）
  - ☆平成29年度の東海生研・行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆三重大学生物資源学研究所 平成29年度第1回環境農林水産フォーラム（6月17日）
  - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」（5月～12月、計7回）
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆「知」の集積と活用による革新的技術創造促進事業（農研機構・生研支援センター）
  - ☆平成29年度林業技術革新プロジェクトのうち森林作業システム高度化技術開発事業（林野庁）
  - ☆平成29年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業（第2次募集）（環境省）
  - ☆平成29年度未来社会創造事業（探索型・大規模プロジェクト型）（JST）
  - ☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（JST）
    - ステージⅢ：NexTEP-Aタイプ
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ（JST）
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ（JST）
  - ☆平成29年度 戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）
  - ☆平成29年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム（総務省）
  - ☆民間の競争的研究資金

\*\*\*\*\*

◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度NPO法人東海地域生物系先端技術研究会総会および第1回セミナー

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会は、通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催します。

【開催日時】平成29年6月22日（木）14：30～15：30 総会  
15：45～16：45 第1回セミナー

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）13階 1302号室  
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】

講演： 「地域農業の将来を考える視点」

愛知県農業振興基金理事長（NPO法人東海生研副理事長） 可知祐一郎氏

【情報交流会】ウインクあいち13階 1306号室 会費制：3,000円

【参加申込み】セミナー参加のみの場合は無料です。お申し込みは、下記の開催案内のURLをクリックして申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、電子メール又はファックスにてお送り下さい。一般の方も参加できます。

開催案内のURL：<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1206>

☆平成29年度の東海生研・行事予定

- 第2回セミナー： 10月17日（火）13：30～ ウインクあいち
- アグリビジネス創出フェア2017 in 東海： 11月7日（火）、8日（水）  
名古屋大学野依記念学術交流館
- 第3回セミナー： 11月21日（火）ウインクあいち
- 競争的資金説明会： 1月中旬
- 情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成29年度 第1回環境農林水産フォーラム

三重大学大学院生物資源学研究科

～東紀州サテライト・東紀州産業振興学舎（天満荘）～

【開催日時】平成29年6月17日（土）13：30～16：00（受付13時～）

【開催場所】三重県立熊野古道センター（映像ホール）

【主催】三重大学大学院生物資源学研究科 教育研究推進センター  
三重大学地域拠点サテライト東紀州サテライト

【共催】NPO 法人天満浦百人会

【対象】関連の企業・団体、一般の方

【内容及び参加申込】下記のURLをご覧ください。

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/cate/news/291.html>

【チラシ】<http://www.bio.mie-u.ac.jp/33afa12a40a834233c5b6ea46e4d674a.pdf>

.....  
☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）  
【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや  
【都市の木質化講座2017ポスター】  
[http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload\\_images/toshinokisituka2017.pdf](http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf)  
【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト  
【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）  
【定員】30～40名  
【参加費】テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）  
【申込み方法】上記のポスター（pdf）に書かれています。  
【都市の木質化プロジェクト】<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>  
【問い合わせ先】名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室  
TEL:052-789-4146・4148 FAX:052-789-4147  
E-mail: woodismnagoya@gmail.com  
お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト）

平成29年度のアグリビジネス創出フェア2017は、下記の通り、10月4日～6日に東京ビッグサイトで開催されます。

【開催日時】平成29年10月4日（水）～6日（金） 10:00～17:00  
【開催場所】東京ビッグサイト 東7ホール（東京都江東区有明3-11-1）  
【入場料・出展料】無料（事前又は当日登録が必要）  
【開催規模】予定参加者数延べ35,000人以上、出展300小間程度（うち一般の出展者210小間程度）  
【ホームページ】<http://agribiz-fair.jp/>  
【お問い合わせ】アグリビジネス創出フェア2017事務局  
（一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内）  
TEL:03-3434-1988 FAX:03-3434-8076 E-mail: abf@jma.or.jp

.....  
○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆「知」の集積と活用による革新的技術創造促進事業（異分野融合発展研究）

（国立研究開発法人農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター）

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/ibunya-hatten/koubo/index.html>

分野等：

1. セルロースナノファイバー(CNF)又はその複合素材の農林水産・食品産業への活用に向けた研究開発
2. 日本食(日本型の食事パターン)の評価手法の策定及び健康増進効果との関連性に関する研究開発

公募期間：平成29年5月26日～6月23日

☆平成29年度林業技術革新プロジェクトのうち森林作業システム高度化技術開発事業  
(林野庁)

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/itaku/20170501\\_1.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/itaku/20170501_1.html)

分野等：

1. 傾斜地での再造林作業を省力化する林業機械の開発
2. 架線集材における荷掛作業の省力化技術の開発

公募期間：平成29年5月1日～6月16日

☆平成29年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業(2次公募)(環境省)

<http://www.env.go.jp/press/104092.html>

分野等：

1. 交通低炭素化技術開発分野
2. 建築物等低炭素化技術開発分野
3. 再生可能エネルギー・自立分散型エネルギー低炭素化技術開発分野
4. バイオマス・循環資源低炭素化技術開発分野

公募期間：平成29年5月24日～6月21日

☆平成29年度未来社会創造事業(探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/application/research/index.html>

分野等：

1. 探索加速型(「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域)
2. 大規模プロジェクト型

公募期間：平成29年6月7日～7月19日

☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-Aタイプ(平成29年度第一回)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_mirai01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_ippan01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

☆平成29年度 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) (総務省)

『異能 (Innovation)』プログラム『破壊的な挑戦部門』

<http://www.inno.go.jp/h29/hakai.php>

分野等：ICT (情報通信技術) 分野において、破壊的価値を創造する、奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援する。

公募期間：平成29年5月22日～6月30日

☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000206.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html)

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆農業・食品情報関係

・農林水産省のホームページに農業技術・研究の見える化サイトが開設されました！

農林水産省は、農業現場における技術的問題の解決に役立てるために、最新の技術や研究成果について、生産者が活用しやすい環境を整備しました。具体的には、これまでホームページ等に分散していた農業技術に関する情報を集約し、一元的に検索可能な「農業技術総合ポータルサイト」を本年4月10日に公開しました。また、多数の農業研究者と研究成果等を検索できる「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」を公開しました。これらは、スマホ・タブレットでも閲覧できます。

「農業技術総合ポータルサイト」は、下記のURLより御覧下さい。

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu\\_portal/top.html](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html)

新規就農者や新たな作物に挑戦する人が知りたい各品目の基本的な栽培技術の情報のほか、現場が直面している課題解決に役立つ様々な実用化技術やマニュアルなどを知ることができます。

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」は、下記URLから御覧下さい。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

最新の研究成果や研究者にアクセスしたい先進農家等は「まるみえアグリ」を利用できます。平成29年4月10日までに収録された研究者と研究成果の数は、それぞれ約3,300名と約28,000件で、今後も充実させる予定となっています。生産者をはじめ、普及指導機関、関連団体・企業等により活用されることが期待されています。

☆野菜関係

・船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法

(国立研究開発法人農研機構・九州沖縄農業研究センター)

イチゴの輸出は果実の損傷を防ぐために、航空便によって行われています。一方、輸送の低コスト化を目的に冷蔵コンテナを用いた船便の導入が提案されていますが、輸送期間が長期となることから品質保持が困難であり、いまだ実現に至っていません。そこで、果実の損傷程度を低減できる伸縮性フィルム容器(2010 年度研究成果情報)もしくは宙吊り型新型容器に、MA(Modified Atmosphere)包装による鮮度保持技術(2007 年度研究成果情報)を併用してシンガポールへの輸送試験を実施し、両技術の応用例として、船便でもイチゴの品質保持が可能なパッケージ方法を提示しました。

「まるみえアグリ」：船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237347>

#### ☆食品関係

- ・ サツマイモでん粉廃液から調製したサツマイモペプチドの脂質代謝改善作用

サツマイモでん粉廃液から調製されたサツマイモペプチドは、マウス体内で血中の中性脂肪や LDL コレステロールの増加抑制作用および臓器への脂肪蓄積抑制作用を示しました。サツマイモペプチドを摂取させると、血中レプチンの増加が抑制することが分かりました。

「まるみえアグリ」：サツマイモでん粉廃液から調製したサツマイモペプチドの脂質代謝改善作用

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/234801>

#### ☆畜産関係

- ・ 伏流式人工湿地ろ過システムは有機排水を冬期も含め長期間安定して浄化できる

養豚場、養鶏場、酪農施設等から排出される汚水の処理にコストがかかることから、省力的で低コストの処理法が求められています。2005 年から産学官連携により開発されてきた「伏流式人工湿地ろ過システム」は、既に一部で導入が進んでいます。これまでの研究成果で、季節的にも経年的にも安定的に汚染処理が可能であり、一般的な活性汚泥処理法の運転費用(電気代、薬品代等)と比べて20分に1程度となります。この方法は、酪農メタン発酵消化液の排水処理、食品工場の排水処理にも応用されています。

「まるみえアグリ」：伏流式人工湿地ろ過システムは有機排水を冬期も含め長期間安定して浄化できる

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237353>

#### ☆林産関係

- ・ 国の庁舎整備で初めて CLT(直交集成材)パネル工法が採用されました

CLT を用いた建築物の一般的な設計法等に関して、これまで CLT を構造部材として用いるためには、建築物ごとに精密な構造計算を行い、大臣認定を受けることが必要でした。しかし、各種試験の結果、平成 28 年 3 月 31 日、4 月 1 日に告示に基づく構造計算等を行うことにより、大臣認定を受けることなく建築確認により建築が可能となりました。また、3 階建て以下の建築物では、防火被覆無しで CLT 等を用いた部材を壁、床又は屋根に用いることが可能となりました。今年度に、国の庁舎整備で初めて CLT パネル工法が採用されました。今後、スギ材などの CLT 化による用途拡大、需要拡大が望まれます。

林野庁プレスリリース：国の庁舎整備で初めて CLT パネル工法を採用

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/fukuri/170608.html>

国土交通省 HP：CLT を用いた建築物の一般的な設計法等の策定について

<http://www.mlit.go.jp/common/001125537.pdf>

#### ☆水産関係

- ・低魚粉飼料で成長選抜したアマゴの成長改善効果

世界的な魚粉供給量のひっ迫により魚粉価格が高騰していることから、養殖用飼料への魚粉配合率を大幅に削減する技術開発が必要となっています。しかし、魚粉代替原料に含まれる生理阻害物質の影響や摂餌性の低下等が生じることが問題となっています。このため、アマゴをモデルとして選抜育種の手法を導入し、低魚粉飼料を与えても成長の優れる個体を継代飼育することにより、成長の優れる家系を得る試験を行いました。その結果、選抜系統では低魚粉飼料を与えた場合に成長改善効果がみられました。その原因は主に低魚粉飼料に対する摂餌性の改善によると考えられました。

「まるみえアグリ」：低魚粉飼料にて成長選抜したアマゴの成長改善効果

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/236854>

.....

#### 編集後記

6 月に入り、トランプ大統領が、地球温暖化防止のためのパリ協定 (COP21) から米国を脱退させると表明し、世界を驚かせました。パリ協定では、全体の長期目標として、平均気温の上昇を産業革命前と比較して 2℃未満に抑えることを掲げ、特に気候変動に脆弱な国々への配慮から、1.5℃以内に抑える努力を行うこととされています。このために、各国は炭酸ガス排出量の削減や途上国への資金援助を行うことになっています。国連気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の第 5 次評価報告書では、今世紀末に最悪のシナリオでは平均気温が最高 4.8℃上昇すると予測されています。この場合に名古屋の真夏の最高気温は 45℃に達すると予測されます。世界の多くの科学者が炭酸ガス濃度が既に 400 ppm を超え、気温の上昇傾向が続いていることを観測し、各地で温暖化による様々な影響が観察されるなどの科学的知見を無視し、地球環境保全への責任を放棄することは、米国の威信を著しく低下させるばかりでなく、実際に米国自身が超大型台風の脅威にさらさ



れる危険性が増大するなど、多くの悪影響を被ることを大統領はじめ米国民によく理解してもらい必要があるようです。

ところで、最近読んだ本に恩蔵直人著「マーケティングに強くなる」(ちくま新書、2017年1月発刊)があります。著者は、早稲田大学商学大学院教授で、マーケティングに関する本を多く著しています。本書は、日本のマーケティングが実務的にも研究的にもデザイン面(審美性、機能性、人間工学的使いやすさ、安全性などの要素を含む)で立ち遅れ、国際競争に負けているという問題意識の下に書かれています。まず、マーケティングの進化について述べ、現在は第3ステージにあり、人々の感情的・精神的充足にまで踏み込んだ検討が必要になっているとしています。次に、顧客ニーズをつかむ場合に「顧客の顧客(B to Bの場合)」に結び付くことの重要性について述べています。更に、未来市場を志向し、その製品開発を成功させる開発チームのあり方について論じています。マーケティングにおける戦略的思考の重要性、イノベーションを起こすホワイトスペース戦略等についても、豊富な実例を挙げて述べています。本書は、企業の経営者、企画や営業関係者、開発・設計者などにとって、最新のマーケティング理論の基本を理解し、実際に役立てていく上で、たいへん参考になると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>